

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、10月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず報告「未踏の第19期スーパークリエイターたち」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■19期の内容を知ることができた点は良かったと思います。さらに、19期以前の未踏のプロジェクトに関して、現在、どのようになっているのかについて、知りたいと思いました。(匿名希望)

■とても面白かったので、もっと紙面を割いて紹介してくれると嬉しいです。(匿名希望)

■色々な開発ソフトウェアが紹介されていて楽しめました。開発したクリエイターの方々の熱い思い入れがあったと思うので、そういった一言もあったら良かったと思います。(匿名希望)

■斬新なアイデアによる創造物を知り研究意欲がきたてられました。(匿名希望)

特集「ユーザスタディのフロンティア」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■現場の雰囲気を感じられるような内容で、勉強になりました。インタビューで原田先生のおっしゃっていたように、私も単に分かった気になっているだけかもしれません。ともあれ、興味深く読ませてくださいました。(青田佳士)

■システム開発の場面等で、ユーザを知ることが重要であることはよく言われるが、具体的にどうすればいいのかいまひとつ理解できないでいた。しかし、特集を読んでいて、その考え方への示唆が得られてよかった。(匿名希望)

■今回の特集は、「編集にあたって」にあるように各者になんらかの参考・一助となればという方針のようだが、ケースバイケース過ぎて全体としてばやけてしまった感じを受けた。そのためか、個別の事例や、事例中の記述としては、面白いと思った部分もあったのだが、

全体としてはいまひとつだった。(匿名希望)

■ユーザスタディにかかわる事例は非常に参考になった。人間を中心にしたシステムデザインの一手法として、勉強してみたい。(匿名希望)

■本号は紙面の多くをこの特集が占めていることが印象的でした。情報処理技術は、技術と人間の両輪で、果実を得ることができると思います。未踏のスーパークリエイターとユーザスタディの連携にも期待します。(匿名希望)

■人間に焦点を当てた特集は、面白いと思った。ユーザスタディからアプリ開発、実装への流れは難しいと思うが、バウンダリー・オブジェクトやインクルーシブデザインなどがあるように、新しい密な人的繋がりを作ることが良い成果に繋がるように思えた。ユーザスタディで問題解決のために見いだされた方法が、会社の方針などで実施できそうにない場合には、どうするのか少し気になった。(匿名希望)

■今月の特集「Whatは後で出す」プロジェクトは、現地ニーズを引き出しやすく、より付加価値のある効果を見いだせる取り組みだと感じた。ただ、これを実際の仕事に当てはめると、期間が長すぎるような気がする。企業は早め早めに手を打つべきと感じた。ほかには、シニアスタディ、認知症プロジェクト、こどものアプローチも自分の家庭環境に身近に結びつけられるので興味をそそられた。特に、高齢者の過ごし方で77歳の方がITを上手に活用して元気に一人暮らしができるというのには驚いた。私の父は66歳になるが認知症を患い、新しいことに興味も持たない(持とうとしない)。この77歳の方と比べると何とも悲観的になってしまう。ITの面白さ、便利さをどう伝えたら興味を持ってもらえるのか、自分の課題だ。(匿名希望)

「1. Whatは後で出す“リコー BOP project”」

■社内の活動を社外に発表しているのが嬉しかった。(藤島智子)

「7. 住民の視点からの復興後の生活」

■現場を見ている人間からすると、机上の空論と思える部分がある。(匿名希望)

「8. インタビュー：今どきの若者の生きる道」

■若者の考えの一端を知ることができた。(匿名希望)

解説「安定マッチング問題」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■適切な具体例を折り込んだ明解な解説で興味深かった。特に未解決問題の紹介がよかった。(匿名希望)

■アカデミックな香りがあり、学会誌にふさわしい。「安定マッチング問題」に書かれていることは、知的好奇心を掻き立てられるうえに、かつ内容を理解しやすく説明している点で非常に優れた記事と思った。(匿名希望)

教育コーナー「ぺた語義：情報専門教育における質保証に関する活動」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■学校の質保証の前に、何のために進学するのかを考へる場を与える方が先だと思う。(匿名希望)

■情報専門教育の質保証に向けたさまざまな取り組みや工夫が紹介されており、参考になった。(匿名希望)

その他の記事に関しては、以下のようなご感想をお寄せいただきました。

■巻頭コラムは大変良い企画だと思いますので、このまま続けてください。(匿名希望)

■社会でも課題解決のための情報活用例が明らかとなり、参考になった。(佐伯嘉康)

■内容が興味深く、じっくり読みたいが、仕事が忙しく、全部読む時間が取れないので、目次で興味があるものをピックアップして読んでいます。(匿名希望)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■活躍している20代の若手研究者を取り上げてほしい。(平井辰典)

■電子カルテなど医療機関のICT化。(匿名希望)

■ネットワーク仮想化技術の最新動向(以前の特集から少し時間が経っていると思うため)。(匿名希望)

■人工知能とエンタテインメントの融合分野における技術の変遷について話してもらいたい。(匿名希望)



【本欄担当 横山昌平, 古宮嘉那子/会員サービス分野】

これらのコメントはWeb版会員の広場「読者からの声」<URL: <http://www.ipsj.or.jp/magazine/dokusha.html>>にも掲載しています。Web版では、紙面の制限などのため掲載できなかったコメントも掲載していますので、ぜひ、こちらをご参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会Webページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL: <http://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/michishirube.html>>で

これからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。

<URL: <http://www.ipsj.or.jp/privacypolicy.html>>

応募先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
情報処理学会 会誌編集部門
E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax (03) 3518-8375
<http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

ご意見をお寄せ
ください!



IP SJ カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
12月14日(土)～	第122回コンピュータと教育・	10月17日(木)	当日のみ	琉球大学
12月15日(日)	第11回教育学習支援情報システム合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ce122cle11.html			
12月16日(月)	連続セミナー 2013 第6回「クラウドソーシングとソーシャルメディア」 http://www.ipsj.or.jp/event/seminar/2013/index.html		定員になり次第	[東京]化学会館7Fホール [大阪]大阪大学
12月16日(月)～	第199回計算機アーキテクチャ・	10月4日(金)	当日のみ	北海道大学学術 交流会館
12月17日(火)	第142回ハイパフォーマンスコンピューティング合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/arc199hpc142.html			
12月19日(木)～	第99回音声言語情報処理研究発表会	10月18日(金)	当日のみ	筑波大学
12月20日(金)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/slp99.html			文京キャンパス
12月19日(木)～	第69回モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究発表会	10月25日(金)		国立女性教育会館
12月20日(金)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/mbl69.html ※参加締切日：詳細は http://www.ishilab.net/mbl/program/2013/69.html をご覧ください			
12月23日(月)～	第101回音楽情報科学研究発表会	10月21日(月)	当日のみ	九州大学
12月24日(火)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/mus101.html ※開催日が12/20-22から変更になりました。			

2014年

	2013年度長尾真記念特別賞候補者推薦募集 http://www.ipsj.or.jp/topics/nagao_boshu2013.html	1月10日(金)		
	デジタルプラクティス「モバイル時代のサービス」特集論文募集 http://www.ipsj.or.jp/dp/cfp/dp0504s.html	2月5日(水)		
	論文誌「ゲームプログラミング」特集への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/14-K.html	2月21日(金)		
	東海支部学生研究発表会助成 http://www.ipsj-tokai.jp/jigyou/happyou/index.html#syorui	2月28日(金)		
	論文誌「洗練された社会を作り上げるモバイル通信と高度交通システム」特集への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/15-C.html	3月31日(月)		
	論文誌「新しい時代に向けて英知を結集するコラボレーション技術とネットワークサービス」特集への論文募集 http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/15-E.html	4月1日(火)		
1月7日(火)～	2014年ハイパフォーマンスコンピューティングと			学術総合センター
1月8日(水)	計算科学シンポジウム (HPCS2014) http://hpcs.hpcc.jp/			一橋記念講堂
1月10日(金)～	第55回プログラミング・シンポジウム			ラフォーレ伊東
1月12日(日)	http://www.ipsj.or.jp/prosym/55/55CFP.html			
1月14日(火)～	第97回プログラミング研究発表会	11月15日(金)	当日のみ	松山市総合コミュニ ティセンター
1月15日(水)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/pro97.html			
1月15日(水)～	第156回ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会	11月22日(金)		下呂温泉小川屋
1月16日(木)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/hci156.html ※今回の研究会は宿泊形式で開催するため、発表および参加には参加申込(宿泊申込)が必要となります			
1月23日(木)	第173回知能システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ics173.html	11月22日(金)	当日のみ	国立情報学研究所
1月23日(木)～	ウィンターワークショップ2014・イン・大洗			大洗ホテル
1月24日(金)	http://oss.sys.wakayama-u.ac.jp/wws2014/			
1月23日(木)～	第190回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会	11月1日(金)	当日のみ	大阪大学
1月24日(金)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/cvim190.html			豊中キャンパス
1月23日(木)～	第200回計算機アーキテクチャ研究発表会	11月22日(金)	当日のみ	東京工業大学
1月24日(金)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/arc200.html			
1月25日(土)	第101回人文科学とコンピュータ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ch101.html	11月18日(月)	当日のみ	同志社大学 今出川キャンパス
1月28日(火)～	第164回システムLSI設計技術研究発表会	11月15日(金)	当日のみ	慶應義塾大学
1月29日(水)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/sldm164.html			日吉キャンパス
1月30日(木)～	第146回アルゴリズム研究発表会	12月1日(日)	当日のみ	函館市民会館
1月31日(金)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/al146.html			
1月31日(金)～	第100回音声言語情報処理研究発表会		当日可	伊豆長岡 ホテル
2月1日(土)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/slp100.html ※宿泊形式で開催するため、宿泊申込が必要となります。			サンバレー富士見
2月4日(火)	ソフトウェアジャパン2014 「アイドル総選挙からセキュリティまで～ビッグデータの今」 http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2014/index.html		1月27日(月) 定員になり次第	タワーホール船堀
2月6日(木)～	第215回自然言語処理研究発表会	12月20日(金)	当日のみ	国立情報学研究所
2月7日(金)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/nl215.html			
2月20日(木)～	第154回グラフィクスとCAD研究発表会	11月29日(金)	当日のみ	理化学研究所
2月21日(金)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/cg154.html			
2月21日(金)	第84回オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/avm84.html	12月13日(金)	当日のみ	沖縄県男女共同参画 センター「ていりる」
2月23日(日)～	第102回音楽情報科学研究発表会	12月25日(水)	当日のみ	筑波大学
2月24日(月)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/mus102.html			東京キャンパス
2月27日(木)～	第24回インターネットと運用技術研究発表会	12月10日(火)		山代温泉 瑠璃光
2月28日(金)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/iot24.html			

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
2月27日(木)～	インタラクシオン2014	11月25日(月)		日本科学未来館
3月1日(土)	http://www.ipsj.or.jp/cgi-bin/ipsj_calendar.cgi			
3月3日(月)～	第147回アルゴリズム研究発表会	1月16日(木)	当日のみ	中央大学 後楽園キャンパス
3月4日(火)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/al147.html			
3月6日(木)～	第158回マルチメディア通信と分散処理・ 第64回コンピュータセキュリティ合同研究発表会	1月10日(金)	当日のみ	明治大学 中野キャンパス
3月7日(金)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/dps158csec64.html			
3月11日(火)～	情報処理学会 第76回全国大会	11月25日(月)	2月21日(金)	東京電機大学 東京千住キャンパス
3月13日(木)	http://www.ipsj.or.jp/event/taikai/76/	12:00迄		
3月15日(土)～	第165回システムLSI設計技術・ 第32回組込みシステム合同研究発表会 (ETNET2014)	1月13日(月)	当日のみ	ICT文化ホール
3月16日(日)	http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/sldm165emb32.html			
9月3日(水)～	FIT2014 第13回情報科学技術フォーラム			筑波大学
9月5日(金)	http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2014/index.html			筑波キャンパス

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 11月15日 人材募集情報 (Vol.54 No.12)
- 11月15日 会誌「情報処理」Web カタログ (Vol.54 No.12)
- 11月15日 デジタルプラクティス「モバイル時代のサービス」特集論文募集

人材募集 (有料会告)



申込方法: 任意の用紙に件名, 申込者氏名, 勤務先, 職名, 住所, 電話番号および請求書に記載する「宛名」, Web掲載の有無などを記載し, 掲載希望原稿〔募集職種, 募集人員, (所属), 専門分野, (担当科目), 応募資格, 着任時期, 提出書類, 応募締切, 送付先, 照会先〕を添えて下記の申込先へ, E-mail, Fax または郵送にてお申し込みください。

*都合により編集させていただく場合がありますので, ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号(15日発行)に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関, 国公立研究機関 21,000円(税込)

賛助会員(企業) 31,500円(〃)

賛助会員以外の企業 52,500円(〃)

*本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り, 追加料金4,000円で同一内容を本会Webページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部門(有料会告係) E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■自然科学研究機構国立天文台

募集人員 年俸制職員(特任専門員) 1:2名, 2:1名, 3:1名*

*1~3については募集職種を参照

所属 チリ観測所(三鷹)

募集職種 1. アルマプロジェクトのデータ解析関連ソフトウェア開発・改良・運用担当
2. アルマプロジェクトのアーカイブ関連ソフトウェア開発・改良・運用担当
3. アルマプロジェクトの制御系ソフトウェア開発・改良・運用担当

着任時期 2014年4月1日

提出書類 (1)履歴書, (2)計算機に関するこれまでの経験を含め, 抱負をまとめた文章(A4用紙2枚程度), (3)迅速に連絡がとれる連絡先(E-mailアドレス, 電話番号)

応募締切 2013年12月25日17時(必着)

送付先 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台チリ観測所 長谷川哲夫

応募書類, 封筒には, 次のいずれかを明記のこと。「年俸制特任専門員(データ解析関連ソフト開発)応募」, 「年俸制特任専門員(アーカイブ関連ソフト開発)応募」, 「年俸制特任専門員(制御系ソフト開発)応募」

照会先 チリ観測所 小杉城治 E-mail: george.kosugi@nao.ac.jp

*問合せのE-mailのヘッダは"nenpousei tokunin inquiry"としてください

その他 仕事内容, 応募資格などの詳細な募集情報は, 国立天文台およびチリ観測所の採用情報にありますので必ずご覧ください

<http://www.nao.ac.jp/about-naoj/recruit.html>, <http://alma.mtk.nao.ac.jp/j/recruit/index.html>

また, ALMAプロジェクトについては下記を参照してください

<http://alma.mtk.nao.ac.jp/j/>, <http://www.almaobservatory.org/>

■芝浦工業大学工学部通信情報学群情報工学科

募集人員 非常勤講師 1名

専門分野 コンピュータグラフィックス関連分野

担当科目 「コンピュータグラフィックス」

応募資格 1) 博士号取得者, 大学院博士課程修了者, または相応の研究実績または実務経験がある方

2) 上記科目の学部レベルの教育を担当できる方

着任時期 2014年9月18日(9月18日より開始される後期授業を担当)

提出書類 (1)履歴書(学歴, 職歴, 学会および社会における活動等, 連絡先のE-mailアドレスを記述のこと), (2)研究業績リスト(査読付き論文, 査読付き国際会議, その他の論文(口頭発表を含む), 著書を区別, すべての著者名を記載, 年号は西暦, 分類ごとに最新のものから番号順), (3)主要論文別刷(最近のものを5編以内, コピー可), (4)教育に対する抱負(A4用紙2枚以内), (5)推薦書

応募締切 2014年1月8日(必着)

送付先 〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5 芝浦工業大学工学部情報工学科 「教員公募書類在中」と朱書き書留

照会先 情報工学科 学科主任 平川 豊 E-mail: hirakawa@sic.shibaura-it.ac.jp Tel(03)5859-8509

その他 詳細は本校Webページ(<http://www.shibaura-it.ac.jp/recruit/professor/index.html>)を参照ください

■岡山県立大学情報工学部情報通信工学科

- 募集人員 教授 1名(任期なし)
- 専門分野 計算機工学, 情報処理学
- 担当科目 学部: 計算機工学入門, 人工知能, データ工学 他, 大学院: 専門分野の講義
- 応募資格 (1)博士の学位を有すること, (2)大学院博士後期課程における教育・研究指導ができること, (3)当該研究分野における教育研究歴を10年以上有すること, (4)教育・研究および地域社会との連携に意欲的であること
- 着任時期 2014年4月1日
- 提出書類 (1)履歴書1部(様式1), (2)教育研究業績書1部(様式2), (3)主要論文別刷(10編以内, コピー可), (4)主要研究テーマの要約(A4用紙1枚程度. これまでの研究の意義や自己評価, 抱負など), (5)将来の教育に対する抱負(A4用紙1枚程度. 着任後の学生への教育・指導など), (6)その他のセールスポイント(共同研究や競争的研究資金獲得状況など), (7)応募者について照会可能な方2名の氏名・連絡先
- 応募締切 2014年1月10日(必着)
- 送付先 〒719-1197 岡山県総社市窪木111 岡山県立大学情報工学部長 金川明弘
「計算機工学教員応募書類在中」と朱書き簡易書留
*応募書類は原則として返却しません。応募書類は本選考のためだけに使用し、それ以外には使用しません
- 照会先 情報工学部情報通信工学科長 末岡浩治 E-mail: sueoka@c.oka-pu.ac.jp Tel(0866)94-2136(直通)
- その他 条件: 採用後は総社市またはその周辺に居住すること
選考方法: 書類審査を通過した候補者には、本学にて面接(プレゼンテーションを含む)を行います。なお、面接の旅費等は自己負担になります
(1)応募書類の様式は、本学公募のWebページ(http://www.oka-pu.ac.jp/?page_id=491)からダウンロードしてください
(2)採用後の勤務条件については、公立大学法人岡山県立大学の定める規程によります

■熊本大学大学院自然科学研究科

- 募集人員 女性教員 助教 1名(任期5年, 審査により再採用可。なお, 再採用は2回までとする)
*ただし, 業績が優れていると認められた場合には, 当初より准教授(任期なし)または教授(任期なし)としての採用もあり得ます
- 所属 情報電気電子工学専攻
- 専門分野 情報工学, 電子工学, 通信工学のいずれかの分野
- 応募資格 応募時点で博士の学位を有する女性研究者で, 研究者としての経験(PDを含む)を有する方(規定により博士課程在籍者は採用できません)
- 着任時期 採用決定後, できるだけ早い時期
- 提出書類 ①履歴書, ②業績リスト, ③主要論文別刷(5編まで, コピー可), ④これまでの研究の概要(A4用紙に2000字程度), ⑤今後の研究計画と抱負(A4用紙に1000字程度), ⑥学生の教育に対する抱負(A4用紙に1000字程度), ⑦所見を求め得る方2名の氏名・役職・連絡先・E-mailアドレス
- 応募締切 2014年1月10日17時(必着)
- 送付先/照会先 〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1 熊本大学大学院自然科学研究科 情報電気電子工学専攻
専攻長 松島 章 E-mail: matsua@cs.kumamoto-u.ac.jp Tel(096)342-3636(直通)
- その他 研究支援: 採用された女性教員が国際的に活躍する研究者として育つように物心両面から支援します。メンター教員を配置し, 研究面での支援を行うとともに, 採用後は, 採用年度にスタートアップ経費(150万円), 2~3年目は毎年100万円の研究費が補助金または自主経費により措置されます。その他の資金については採用部局の規定に従います
詳細はWebページ(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/saiyou/>)を参照ください

■愛媛大学大学院理工学研究科

- 募集人員 准教授または講師 1名
所 属 電子情報工学専攻情報工学講座
専門分野 ソフトウェア工学, およびその関連分野
担当科目 上記専門分野に関する講義および学生実験, 共通教育科目など
応募資格 教育と研究に熱意と能力があり, 博士あるいはPh.D.の学位を有する方
着任時期 2014年6月1日以降のできるだけ早い時期
提出書類 (1)履歴書, (2)研究業績, (3)教育業績, (4)その他の業績, (5)今後の活動の抱負, (6)これまでに獲得した研究助成リスト, (7)主要な研究業績の別刷(3編以内), (8)応募者について所見を求め得る方3名以内の氏名・役職・連絡先, そのうち1名の推薦書
※上記提出書類(1)～(5)については, 愛媛大学工学部Webページ(<http://www.eng.ehime-u.ac.jp/about/kyoinkoubo/>)に掲載してある【教員公募:応募書類】の様式に従い作成してください(Webページの見本を参考にしてください)
※上記提出書類(1)～(6)については郵送とは別に電子ファイル(Word)を下記E-mailアドレスへ提出してください
※一次審査(書類審査)通過者に対しては, すべての研究業績の別刷のご提出を求めます
- 応募締切 2014年1月31日(消印有効)
- 送付先/照会先 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3 愛媛大学大学院理工学研究科電子情報工学専攻情報工学コース長 高橋 寛
E-mail: takahashi@cs.ehime-u.ac.jp Tel(089)927-9957 Fax(089)927-9973
「教員応募書類在中」と朱書き簡易書留 *応募書類は返却いたしません
- そ の 他 面接審査:一次審査(書類審査)通過者に対して実施. なお, 面接の際の旅費などの支給はありません
(1)男女共同参画社会基本法の趣旨に配慮し, 教員の選考を行います
(2)個人情報保護のため, 応募書類に記載された個人情報は, 選考および採用以外の目的には使用しません. また, 応募の秘密は厳守します. なお, 選考の結果, 採用される方の氏名を愛媛大学Webページで公表させていただきます
愛媛大学採用情報: <http://www.ehime-u.ac.jp/information/employment/teacher.html>

CONTENTS

Preface

I'll be in the Midst of My Youth
Kaoru YUMI (Actress)

Special Features

Systems and Software Quality

- 2 0. Foreword
Shin'ichi FUKUZUMI and Toshihiro KOMIYAMA (NEC Corp.)
- 4 1. System and Software Quality Improvement :
Issues and Current Approach
Motoei AZUMA (Waseda Univ.)
- 10 2. Systematization and Standardization of Systems
and Software Quality
Toshihiro KOMIYAMA (NEC Corp.)
- 17 3. Quality Measurement Techniques for Improving
Systems and Software Products
Atsushi YAMADA (Toshiba Corp.), Yukio TANITSU (Synform Co.,
Ltd.), Noriko WADA (ISO/IEC JTC 1/SC 7/WG 6) and Shin'ichi
FUKUZUMI (NEC Corp.)
- 24 4. A Quality Evaluation of System and Software
- Introduction of Actual Application of ISO/IEC
25000 (SQuaRE) -
Kazuhiro ESAKI (HOSEI Univ.), Kenichi SAKAMOTO (NTT Data
Corp.) and Noriko YASUHARA (Hitachi, Ltd.)
- 31 5. Non-Functional Software Requirements
Definition : For Creating Quality Software
Makoto NONAKA (Toyo Univ.) and Motoei AZUMA (Waseda
Univ.)
- 38 6. Establishment of the International Standard
based Software Quality Certification Scheme
Shunichi ISHIKAWA (Computer Software Association of Japan)
and Toshihiro KOMIYAMA (NEC Corp.)
- 45 7. Quality in Use
Shin'ichi FUKUZUMI (NEC Corp.), Naoki HIRASAWA (Otaru Univ.
of Commerce) and Yukiko TANIKAWA (NEC Corp.)
- 51 8. Process Design Focusing on Quality
Tsuyoshi NAKAJIMA (Mitsubishi Electric Corp.), Atsushi YAMADA
(Toshiba Corp.) and Shin'ichi FUKUZUMI (NEC Corp.)

- 58 9. Software Requirement and Evaluation in
Software Quality Accounting
Naomi HONDA (NEC Corp.)
- 65 10. Body of Knowledges for Software Quality
Hironori WASHIZAKI (Waseda Univ.)

Series : Recent Trends of ICT Application to Railway
Operation and Signaling Systems

- 72 Research and Development of Advanced Railway
Scheduling Algorithms
Norio TOMII (Chiba Institute of Technology), Jun IMAIZUMI (Toyo
Univ.) and Satoshi KATO (Railway Technical Research Institute)

Series : Pilgrimage to Vintage Computers / Trail Blazers'
Recollections of 0's and 1's

- 82 Oral History : Interview with Dr. Yamada Hiroshi
Tsuneo URAKI (Tokyo Univ. of Technology) and Akihiko YAMADA
(National Museum of Nature and Science)

Senior Column : Messages on Favorite IT

- 88 Technology of Giving-Up
Makoto NAGAO

"Peta-gogy" for Future

- 89 Promoting a Subject "Information" Education in
Information Processing Society of Japan
Mari INOKI (Toshiba Solutions Corp.)
- 90 PBL Summit - Development of PBL by Students -
Tomohiro IWAMOTO (CA MOBILE, Ltd.)
- 94 Professionals Required at the Origins of
Information Systems : Let's Make Innovation
Systems Utilizing Creative Thinking
Yasuhide HOSOKAWA (Japan Users Association of Information
Systems)

- 98 Biblio Talk



フォロー・
リツイート
お願いします

◎twitter で情報発信中!

情報処理学会ツイッター➡ @IPSJcom

- ソフトウェア工学研究会➡ @IPSJ_SIGSE
- ハイパフォーマンスコンピューティング研究会➡ @HpcCommittee
- ヒューマンコンピュータインタラクション研究会➡ @ipsj_sighci
- 情報基礎とアクセス技術研究会➡ @sigifat
- モバイルコンピューティングとコピキタス通信➡ @ipsj_sigmbi
- インターネットと運用技術研究会➡ @IPSJ_SIGIOT
- 自然言語処理研究会➡ @ipsj_signl
- 音楽情報科学研究会➡ @ipsj_sigmus
- コンピュータと教育研究会➡ @ipsjce
- エンタテインメントコンピューティング研究会➡ @ipsj_sigec
- バイオ情報学研究会➡ @sigbiojapan



いいね!・
シェア
お願いします

◎Facebook で情報発信中!

情報処理学会ページ www.facebook.com/IPSJcom

- 計算機アーキテクチャ研究会 www.facebook.com/groups/ipsj.sigarc/
- システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会 www.facebook.com/groups/ipsj.sigos/
- モバイルコンピューティングとコピキタス通信研究会 www.facebook.com/IPSJ.SIG.MBL
- インターネットと運用技術研究会 www.facebook.com/ipsjiot
- コンシューマ・デバイス&システム研究会 www.facebook.com/sig.cds
- 電子化知的財産・社会基盤研究会 www.facebook.com/eipjp
- 会員の力を社会につなげる研究グループ www.facebook.com/ssr.ipsj

ソフトウェアジャパン 2014 開催のご案内

『アイドル総選挙からセキュリティまで ~ビッグデータの今』

<http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2014/>

開催日時：2014年2月4日(火) 9:30-18:30 (予定) [開場/受付開始 9:00~]

開催会場：タワーホール船堀

(東京都江戸川区船堀4-1-1) *都営地下鉄新宿線「船堀」北口出口 徒歩1分

主催：一般社団法人 情報処理学会

協賛：一般社団法人情報サービス産業協会、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会、一般社団法人電子情報技術産業協会、

先端 IT 活用推進コンソーシアム、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人日本ソフトウェア科学会、独立行政法人科学技術振興機構

後援：文部科学省、経済産業省、総務省、独立行政法人情報処理推進機構

ビッグデータは、今や一般メディアにおいても頻りに取り上げられる「時代を代表するキーワード」の一つです。ビッグデータによるマーケット分析は、インターネット業界だけでなく、広くビジネス戦略作りの常識になりつつあります。このようなビッグデータビジネスは、米国の Google、Amazon、Facebook などの「インターネットジャイアント」が世界市場をトップダウン的に牽引する状況が続いています。一方、改めて日本の取組みを見なおしてみると、自動車産業・次世代交通システムやスマートシティ、更にはアイドル総選挙など、ボトムアップ的ではありますが、幅広い応用分野において、興味深い取組みが見えてきています。分野毎のニーズやノウハウを活かした力強い動き、地域社会や文化にも適合できる柔軟性のある取組みも始まっています。ソフトウェアジャパン2014では、我が国のビッグデータの動向を再検証するとともに、「日本のビッグデータの今」について多角的に掘り下げます。国内に「強者」をもたない日本において、ビッグデータの将来像をどう描くか、力強く技術開発・市場開発を進めるために何をなすべきか、ビッグデータのエコシステムが拡大する中での社会的課題は何か、について議論します。

■参加費	午後メインセッション	1. 情報処理学会正会員・賛助会員	5,000 円
		2. 関連学協会・協賛団体の正会員・賛助法人会員	7,000 円
		3. 上記 1、2 以外の一般参加者	10,000 円
		4. 学生 一律	1,000 円
	午前 IT フォーラムセッション	不問	無料

■参加申込：標記の Web サイトから事前申込をお願いします。

■参加申込締切：2014年1月27日(月) *メインセッション、IT フォーラムセッションとも定員になり次第締切

■問合せ先：情報処理学会事業部門 Tel.(03)3518-8373 E-mail: jigyos@ipsj.or.jp

■メインセッション プログラム (13:00~18:30 (予定)) [会場：5F 大ホール]

13:00-13:05 Opening	
13:05-16:20 第1セッション:キーノート セッション	
13:05-13:50	基調講演：「マーケットの破壊的変化とビッグデータ」 日高信彦(ガートナー ジャパン株式会社 代表取締役社長)
13:55-14:40	招待講演(1)：「ビッグデータはクルマの自動運転実現にも大きく寄与する」 野辺継男(インテル株式会社 オートモーティブ・ソリューション・グループ チーフ・アドバンストサービス・アーキテクト / ダイレクタ)
14:45-15:30	招待講演(2)：「サイバー社会の安全・安心を加速するセキュリティ技術」 大西克美(日本アイ・ビー・エム株式会社 グローバル・テクノロジー・サービス事業 技術理事(Distinguished Engineer))
15:35-16:20	招待講演(3)：「参議院選挙から投票システムまで、ネットで変わる政治とコミュニティ」 市ノ澤充(株式会社パイブドビッツ オープンデータ推進事業部 事業部長 / 政治山運営部 部長)
16:30-17:40 第2セッション:パネルセッション「日本のビッグデータの今」	
司 会：後藤厚宏(情報セキュリティ大学院大学 教授) パネリスト：日高信彦(ガートナー ジャパン株式会社 代表取締役社長) 野辺継男(インテル株式会社 オートモーティブ・ソリューション・グループ チーフ・アドバンストサービス・アーキテクト / ダイレクタ) 大西克美(日本アイ・ビー・エム株式会社 グローバル・テクノロジー・サービス事業 技術理事(Distinguished Engineer)) 市ノ澤充(株式会社パイブドビッツ オープンデータ推進事業部 事業部長 / 政治山運営部 部長) 湯淺壘道(情報セキュリティ大学院大学 学長補佐 / 情報セキュリティ研究科 教授)	
17:50-18:25 第3セッション:ソフトウェアジャパンアワードセレモニー	
17:50-17:55	ソフトウェアジャパンアワード 表彰式
17:55-18:10	受賞スピーチ(1): 調整中
18:10-18:25	受賞スピーチ(2): 調整中
18:25-18:30 Closing	
18:40-20:15 情報交換会(懇親会) デジタルプラクティスアワード表彰式	

■ ITフォーラムセッション

<p>サービスサイエンスフォーラム×JUAS ×JST 社会技術研究開発センター 「サービス事業を成功に導く「サービスモデル」と「ビジネスモデル」</p> <p>【セッション概要】サービスサイエンスを現場に適用する際に「サービスモデル」を具体化すると、誰にでも理解でき納得できるサービス改善を進められる。本セッションでは、先進事例として、どのような「サービスモデル」が使われているか、また今後検討すべきポイントなどを議論する。さらに、サービス事業を成功させるためには、顧客満足度を高めるだけでなく、利益を上げることが必要であり、このためには価値あるビジネスモデルを具体化することが必須である。本セッションでは、実際に取り組まれているサービスモデルとビジネスモデルについて議論を深める。</p> <p>セッション時間:9:30-12:00 / 会場 2F 桃源</p>	有料会告
<p>コンタクトセンターフォーラム 「コンタクトセンタの経営貢献～先進事例で語るコンタクトセンタの経営貢献～」</p> <p>【セッション概要】コンタクトセンタは、企業の中にあつて顧客接点を担う重要な組織である。しかし、この重要性を理解しておらず、または、その価値を過小評価している経営者も多く、コンタクトセンタの社内での位置付けは、まだ低いと言わざるをえない。一方、先進的な組み立てを成功させ、企業業績の改善に大いに貢献している「経営に貢献する コンタクトセンタ」も生まれつつある。当セッションでは、コンタクトセンタによる経営貢献の中身を体系的に整理(講演1)し、パネルディスカッションでは、多くの先進コンタクトセンタのリーダーにパネラーとしてご参加頂き、具体的にその中身を大いに語って頂く。どのように経営に貢献するコンタクトセンタへの変身を遂げたのか? 解決すべき課題は何か? 経営貢献の実現に向け、その胆となる部分は何か? 参加者を含めて双方向に広範な議論を展開し、コンタクトセンタによる経営貢献の本質に迫る。</p> <p>セッション時間:9:30-12:00 / 会場 2F 福寿</p>	
<p>ITダイバーシティフォーラム 「IT makes us happy2! ～ITで楽しくしなやかに生きる!～」</p> <p>【セッション概要】ITは重要な社会インフラであることは疑いようがありません。昨今は、システムが大規模化し、複雑化し、セキュリティ、業務継続性、運用保守性などの側面が重要視されています。ITを用いて、安心・安全で信頼性の高い社会の実現につなげるのは、情報処理学会の使命であり、情報処理の技術者が取り組むべき事柄です。しかし、取り組むべき一人一人のモチベーションが下がったままでは使命達成も加速しません。私たちが楽しくいきいきとチャレンジできることが重要だと考えます。昨年度に引き続き、本セッションでは、ITを通じたビジネスやサービス提供にかかわる方々にご登壇いただき、ITは人と人とをつなげ、生活を豊かにしてくれる手段であることを再認識し、私たちが毎日をいきいきとしなやかに生きるためのヒントについて考えてみます。</p> <p>セッション時間:調整中 / 会場 2F 平安</p>	
<p>高度IT人材育成フォーラム 「高度IT資格制度と情報系プロフェッショナルコミュニティのあるべき姿」</p> <p>【セッション概要】企業のビジネスモデル革新や、マイナンバー等に代表される政府の情報化の流れ、TPP等に代表されるグローバル標準化の流れをリードするためには高度な能力を持ったIT人材が欠かせない。情報処理学会では、こうした人材の可視化や情報系プロフェッショナルコミュニティの創設を目的として高度IT資格制度の検討を進め、2013年6月に発表した。さらに、個人を対象とする資格認証制度の試行および企業内の資格制度を対象とする企業認定制度の詳細設計を進めている。本シンポジウムでは、これらの取り組みの成果および関連する取り組みを紹介し、高度IT資格制度や情報系プロフェッショナルコミュニティのあるべき姿についての議論を深める。</p> <p>セッション時間:9:30-12:00 / 会場 2F 瑞雲</p>	
<p>ビッグデータ活用実務フォーラム 「ビッグデータ利活用の実務とその適用事例」</p> <p>【セッション概要】近年、インターネットや情報技術の発展により大量データを取り扱う局面が増えており、ビッグデータという言葉が非常によく使用され、バズワードと称されるまでになっている。今後のビッグデータ活用の定着のためには、何に活用するかその適用分野の拡大と統計解析を含む要素技術の定着が鍵を握っていると思われる。本フォーラムセッションでは、ビッグデータの活用事例とその技術応用について様々な分野からの5題の講演を企画し、多くの技術応用事例とその適用分野を見ていくことで、今後のビッグデータ活用の適用拡大を考え、その情報を共有する機会を提供することを目指す。</p> <p>セッション時間:9:30-12:00 / 会場 2F 蓬萊</p>	
<p>個人情報利活用WG 「情報処理技術によるパーソナルデータの安全な利活用の指針」</p> <p>【セッション概要】スマート端末やウェアラブル機器の普及や米国の国家安全保障にまつわる諸々の事件を通じてプライバシーについての関心と懸念が高まりつつあります。また、EUと米国の個人情報保護に関する方針が対立しているため、グローバルなビジネスを展開する上での課題が生じています。このような状況を受けて情報処理学会では「個人情報の利活用促進に関する検討WG」を2013年7月に設立し、情報処理技術による個人情報の扱いについて、学会としてのガイドラインの策定や啓発活動のための検討を進めています。本セッションでは、法律の専門家をお招きし、その検討の成果を踏まえて議論します。</p> <p>セッション時間:調整中 / 会場 3F 307</p>	
<p>IPA/SEC 情報処理推進機構 ソフトウェア高信頼化センター 「データの分析に基づくシステムの信頼性向上」</p> <p>【セッション概要】今日、私たちを取り巻く環境の多様化とその変化はますます激しさを増し、それに伴い、私たちの生活や社会経済活動にとって必要不可欠なITシステムにおいては、その規模及び複雑さが増大し続けています。また、私たちの活動やITシステムの稼働に付随して生み出されるデータの量も、爆発的に増加しています。このような状況において、高信頼なサービス水準を維持し続けるためには、その目的に適切なデータを抽出して分析し、その結果を業界や世代を超えて幅広く共有・伝承していくことが必須となっています。本セッションでは、このようなデータの分析に基づく高効率で高信頼なソフトウェア/システムの構築・運用に関し、IPA/SECにおける取組みと成果、及び国内3大学における実践的な調査研究の内容等について紹介します。</p> <p>セッション時間:9:30-12:00 / 会場 4F 研修室</p>	
<p>JISA 情報サービス産業協会 「クラウド時代のシステムインテグレーション～顧客の経営革新を支える技術への転換と品質保証～」</p> <p>【セッション概要】情報サービス産業協会は2011年8月に「クラウドコンピューティングが情報サービス事業者に与える影響とビジネス拡大に向けての提言」を公開し、情報サービス事業者がクラウドを活用するビジネスを行う上での課題を整理した。当会ではクラウド基盤をシステムインテグレーション(SI)ビジネスに積極的に取り込んでいく観点から、本ビジネスを実現する技術課題のうち、「クラウドを活用するのに適切な開発プロセス」と「SIer視点でのIaaSにおけるSLAのあり方」に注目し調査を継続した。本講演ではクラウドの登場が、従来型のSIを大きく変貌させるインパクトをもつことを踏まえた上で、上記2テーマの調査結果を報告する。</p> <p>セッション時間:9:30-11:45 / 会場 4F 401</p>	
<p>AITC 先端IT活用推進コンソーシアム 「ビッグデータを真に活用するために～実証プロジェクト「知識から行動へ」そして「気象庁XMLとクラウド技術」検証のご紹介」</p> <p>【セッション概要】先端IT活用推進コンソーシアム(AITC)では、ビッグデータの真の活用を目指し、主として2つの取り組みを展開中です。一つは5部会連携で取り組んでいる「知識から行動へ」をテーマとする実証プロジェクト「Project LA (Leads to Action)」であり、もう一つはクラウド・テクノロジー活用部会における気象庁XMLとクラウド技術の検証作業です。本日は、クラウド基盤上のビッグデータに人々が意味付けし、機械的に構造化・解析することで個人化した知識を提示し、一人ひとりの行動が促されることを目指している「Project LA」を思想面と技術面から、そして気象庁XMLのご紹介を踏まえて、クラウド・テクノロジー活用部会における「気象庁XMLの可視化とセキュリティ」の検証内容についてご紹介いたします。</p> <p>セッション時間:9:30-12:00 / 会場 4F 403</p>	
<p>ユニバーサルデザイン協創フォーラム【展示】 「見えなくても中身がわかる!! パーコードを用いた視覚障害者向け商品案内」</p> <p>【セッション概要】まとめ買いしてきた商品や、棚の奥にしまっていた缶詰め、いままさに空けようとしているペットボトルの中身、インスタントラーメンの味が、空ける前になんだかわかったら、生活が楽しくなると思いませんか。バーコードを読み取って、視覚に障害のある人に音声で知らせるプロジェクトをはじめています。本年の展示では、さわってバーコードの位置がわかるパッケージや、OCRを利用して賞味期限を読み上げる携帯機器を展示します。会場で体験もできますので、視覚に障害のある方もない方もぜひいらして体験してみてください。また、腕に自信のある方、ぜひフォーラムに参加して、ソフト開発にご協力ください。</p> <p>展示時間:13:00-18:30 / 会場 5F ホール前</p>	

情報処理学会第76回全国大会イベント企画のみ聴講参加「無料」!!
事前予約申込はこちらから⇒<http://www.ipsj.or.jp/event/taikai/76/>

第76回全国大会 聴講参加・講演論文集事前予約の御案内 『今、世界ナンバー1へのチャレンジ』

大会会期：2014年3月11日(火)～13日(木)
大会会場：東京電機大学 東京千住キャンパス (東京都足立区千住旭町5)
共催：東京電機大学
後援：足立区/足立区教育委員会

情報処理学会第76回全国大会の「大会聴講参加」「講演論文集DVD-ROM・冊子」ならびに「懇親会参加」の事前予約申込受付を開始いたします。今回の全国大会では、**第1～3イベント会場において開催される招待講演企画、イベント企画のみを聴講希望の場合には、大会聴講参加費を会員・非会員、一般・学生を問わず全て「無料」とさせていただきます。**

イベント企画のみ聴講希望の方は、大会Webページから事前予約申込みを頂く際「大会イベント企画限定聴講参加」の方にお申込みください。通常の一般セッション・学生セッションも聴講希望の場合には、聴講参加費は「有料」となりますので、「大会共通聴講参加」の方にお申込みください。

皆様どうぞお問い合わせのうえお申込みください。

事前予約申込受付期間：2013年12月13日～2014年2月21日

招待講演企画【聴講参加無料】：招待講演3件、基調講演1件を予定しております。

招待講演-1	11日(火)13:55-14:25 第1イベント会場[1号館 2F 丹羽ホール] 「IEEE Computer Society 2022 Report」 Dejan S. Milojevic (IEEE Computer Society President)
招待講演-2	11日(火)14:30-15:00 第1イベント会場[1号館 2F 丹羽ホール] 「SW enabled IT industry development strategy in Korea」 Chong-kwon Kim (KIISE President)
招待講演-3	12日(水)13:15-14:15 第1イベント会場[1号館 2F 丹羽ホール] 「「はやぶさ」で実証された、往復の宇宙飛行がかなえる、太陽系大航海時代」 川口 淳一郎 (宇宙航空研究開発機構(JAXA) シニアフェロー・教授 / 「はやぶさ」元プロジェクトマネージャ)
基調講演	13日(木)13:15-14:15 第1イベント会場[1号館 2F 丹羽ホール] 「ビッグデータの今」 喜連川 優 (一般社団法人 情報処理学会 会長 / 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 所長 / 国立大学法人 東京大学生産技術研究所 教授)

イベント企画【聴講参加無料】：各イベント企画では、その分野の最前線で活躍されておられる方をお招きし講演、パネル討論等の開催を予定しております。

第1イベント会場 1号館 2F 丹羽ホール	11日 9:30-12:00 「先進的ハードウェアによる超高性能データ処理へ向けて」
	11日 13:15-13:50 「大会挨拶・各種表彰式・情報処理技術遺産認定式」
	11日 13:55-14:25 「招待講演-1 Dejan S. Milojevic (IEEE-CS)」
	11日 14:30-15:00 「招待講演-2 Chong-kwon Kim (KIISE)」
	11日 15:15-17:45 「人間を超えたコンピュータ将棋はどこへ向かうか」
	12日 9:30-12:00 「情報セキュリティ人材育成 「CTF とかるた、Shellcode、クイズ、トライアスロン、ハッカソンの世界」
	12日 13:15-14:15 「招待講演-3 川口 淳一郎 (宇宙航空研究開発機構(JAXA))」
	12日 14:30-17:00 「足立から世界へ宇宙へ」
	13日 9:30-12:00 「論文必勝法 ～英語で論文を書こう!～」
	13日 13:15-14:15 「基調講演 喜連川 優 (IPSJ/NII/東大)」
第2イベント会場 1号館 1F 100周年ホール	11日 10:00-12:00 「～コンピュータパイオニアが語る～「私の詩と真実」」
	11日 15:15-17:45 「緊急時における共助型フリーインターネットの課題と適切な実現に関する討論」
	12日 9:30-12:00 「エクサスケールを目指す技術開発最前線」
	12日 14:30-17:00 「企業で活用される自然言語処理技術」
第3イベント会場 2号館 5F 2503教室	13日 9:30-12:00 「知のコンピューティングー 知の創造促進と科学的発見・社会適用加速ー」
	11日 9:30-12:00 「高校での情報教育 ー2013年度版学習指導要領のもとで：普通科・専門学科、および教員養成」
	11日 15:15-17:45 「大学入試における「情報」入試のあり方と可能性」
	12日 9:30-12:00 「「学会へ行こう! 若者の夢を実現できる場所」 ー学会が若者にできること、若者が学会にできることー」
	12日 14:30-17:00 「企業情報システムにおける発注者の育成に向けて：学会への期待」
13日 9:30-12:00 「大学における一般情報教育の現状と展開」	

一般セッション・学生セッション【聴講参加 有料】:

約 1,300 件の研究成果発表があります。大会 3 日間でおおよそ 30 会場を使用して、190 あまりのセッションが生まれ、活発な発表、議論・討論が行われます。

懇親会【有料】:

毎回多数の方にご参加をいただき親睦を深めております。

開催日時: 2014 年 3 月 11 日 (火) 18:15~20:15 (予定)

開催会場: 東京電機大学 東京千住キャンパス 3 号館 2F 食堂 (予定)

■聴講参加費・講演論文集代・懇親会参加費 (税込)

申込種別	予価(2/21迄)	定 価
大会イベント企画のみ聴講参加	無料	無料
大会共通聴講参加 (正会員)	3,000円	3,000円
大会共通聴講参加 (正会員) *DVD-ROM 1枚付き	8,000円	8,000円
大会共通聴講参加 (一般非会員)	6,000円	6,000円
大会共通聴講参加 (学生会員・学生非会員)	無料	無料
懇親会参加 一般 (正会員・一般非会員)	4,000円	5,000円
懇親会参加 学生 (学生会員・学生非会員)	2,000円	3,000円
講演論文集分冊 (個人・法人問わず)	12,000円	13,000円
講演論文集セット *DVD-ROM 1枚付 (個人・法人問わず)	57,000円	61,000円
講演論文集DVD-ROM (個人)	8,000円	8,000円
講演論文集DVD-ROM (法人)	55,000円	55,000円
送料	セットおよびセット冊数以下	800円
	セット冊数以上	1,000円
	DVD-ROM 1枚につき	500円

■留意事項

※「大会イベント企画のみ聴講参加」は、招待講演企画・イベント企画 (大会第1~3イベント会場で行われるイベント企画) ・各種展示のみ聴講参加可能です。一般セッション・学生セッションの聴講はできませんのでご注意ください。

一般セッション・学生セッションも聴講参加希望の場合には、大会共通聴講参加 (有料) の方にお申込みください。

※「大会共通聴講参加」は、一般セッション・学生セッションを含む大会全てのセッションの聴講参加が可能です。

※DVDは学生限定・大会会場限定で学割会場販売 (4,000円) いたします。

※講演論文集、DVD-ROM共に、大会開催前の事前発送は致していません。

受取りは当日会場受取りか大会終了後の郵送となります。

※講演論文集またはDVD-ROMを郵便で受け取る場合には別途送料がかかります。

※講演参加申込の方は聴講参加申込は不要です。聴講参加をお申込みになりますと二重申込となりますのでご注意ください。

■聴講参加および講演論文集の予約申込、詳細は、以下のサイトからお願いいたします。

第76回全国大会公式Webサイト <http://www.ipsj.or.jp/event/taikai/76/>

■問合せ先

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F

一般社団法人情報処理学会 事業部門

電話 (03) 3518-8373, FAX (03) 3518-8375

e-mail: jigyo@ipsj.or.jp

2014 年度会誌「情報処理」および「デジタルプラクティス」モニタ募集のお知らせ

会誌編集委員会
デジタルプラクティス編集委員会

会誌「情報処理」および「デジタルプラクティス」をより良くするために編集委員一同努力を続けておりますが、会員の方々の評価や希望をうかがい、今後の改善に役立てるために、モニタ制度を設けております。

関心のある方はぜひふるってご応募ください。

応募の資格 本会員で、モニタの役割を積極的に果たしていただける方。

モニタの役割 「情報処理」および「デジタルプラクティス」巻末の所定用紙または学会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>) から、毎月アンケートに回答する。

- ・記事に対する評価
- ・記事に対する感想・意見
- ・記事テーマの提案
- ・そのほか全般的な意見・提案など

注) 記事をすべて読むといったことは必ずしも必要ではありません。自分の立場や問題意識、得意とする分野などを基準とした「独断と偏見による」自由な意見を期待します。

期 間 原則として1年間(2014年4月～2015年3月)。*最長3年までとします。

対 象 号 会誌「情報処理」55巻5号～56巻4号、および年に4回発行される「デジタルプラクティス」

謝 礼 貴重なご意見をいただいた方には薄謝または記念品を贈呈します。

募集人員 特に定めませんが、応募者数によっては当委員会で調整させていただくことがあります。

応募締切 2014年2月28日(金) 必着 *申込書を Fax するか、または E-mail でお申し込みください。

申込/照会先 情報処理学会 会誌編集部門(モニタ係)

2014 年度会誌「情報処理」および「デジタルプラクティス」モニタ申込書

宛先: 情報処理学会 会誌編集部門(モニタ係)

E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

氏 名

会員番号 ()

住 所 〒

所 属

E-mail:

Tel () -

Fax () -

年 齢 (歳)

業種: (a) 企業(サービス業) (b) 企業(製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関(大学・高専など) (e) 学生 (f) その他

職種: (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務 (f) 会社経営・役員・管理職
(g) 教員(大学・大学院) (h) 教職員(小・中・高校・高専など) (i) 学生 (j) その他

情報処理学会は会員の皆様向けのサービス向上に継続的に取り組んでいます。昨年の本欄でご紹介した会員満足度調査の結果に基づき優先度の高いものから取り組んでいます。

会員の皆様と学会をつなぐ学会誌「情報処理」については特集の企画に加え、「鉄道の運行システムにおける情報処理技術の動向」、「ビブリオ・トーク」など読みやすい連載も企画しています。

巻頭コラムには今後も次々に各界の著名人が登場しますので、ご期待ください。今月号から表紙のデザインが変わりました。今後の展開にご注目ください。昨年1年間表紙を飾った可愛い2人は今後も学会ゆるキャラとして時々登場します。

学会Webも会員の皆様と学会をつなぐ重要なものとして、2011年の大改訂以後も毎年見やすくする工夫を凝らしています。各研究会のWebページとの連携も進め、毎月約20万件のアクセスとなり4年前の2倍となりました。

学会Webには学会のすべての最新情報を載せていますが、情報が多すぎて欲しい情報が見つからないなどの声も聞きます。検索エンジンを一度お試しください。

ご存知でしたか？ のページ

<https://www.ipsj.or.jp/annai/other/gozonzi.html>

研究会のベストプラクティスをまとめたページ

<http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/best-practice.html>

等も作っています。幹事や運営委員になったが運営方法がよく分からない、ほかの研究会のノウハウを知りたいときなどぜひ

参考にしてください。

2014年4月から大学の図書館向けに電子図書館のサイトライセンスサービスを開始いたします。ID、パスワードなしに論文誌、トランザクション、研究報告がすべて閲覧できるサービスです。ぜひ契約していただけるように図書館のご担当者様に皆様からも働き掛けをお願いいたします。

SNSでの情報発信も行っています。いいね！やフォローをお願いします。

Facebook <https://www.facebook.com/IPSJcom>

Twitter [#IPSJ](https://twitter.com/IPSJcom)

事務局長 <https://www.facebook.com/yoshiki.shimotsuma>

とのお友達も大歓迎です。

しもつま
(下間芳樹/事務局長)



読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約100名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、毎号巻末に掲載しております所定の用紙またはWebページ (<http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>) をお使いいただき、奮って事務局までお寄せください。

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax:(03)3518-8371



【一般論文】

- Yosenabe is NP-complete † Chuzo Iwamoto
- 軽量ハイパーバイザによるシステムイメージの完全性保護 忠録洋輔 他
- オーバー 50Gbit/s PC クラスタ型ストリームサーバの構成法* 君山博之 他
- 実写ムービーコンテンツ作成支援システムの設計と実装 中島潤耶 他
- 秘密分散法に基づくセキュアな無線通信リンクの形成—狭ビーム形成の効果とその弊害—* 山中仁昭 他
- QoE 状況依存性に係る同一ユーザ群の評価レンジのモデル化 江口真人 他
- 多変量解析による標的型攻撃の分類 三村 守 他
- 遺伝的アルゴリズムを用いた基底関数構築と非線形時系列予測 塚田将太 他
- テキストコーパスを用いた漢字詳細読みの自動生成 川崎博章 他
- 音節 N-gram の事前検索結果を利用した音声中の検索語検出の高速化方式 伊藤慶明 他

- ブログページ集合からのポスト及びコメント自動分離抽出手法 吉田光男 他
- Summarizing Nursery School Surveillance Videos by Distance Metric Learning Yu Wang 他
- Adaptive Keypose Extraction from Motion Capture Data Takeshi Miura 他
- Android スマートフォンにおける近接センサによる画面ロック手法の開発 † 長谷川達人 他
- A Remote Communication System to Provide "Out Together Feeling" * Ching-Tzun Chang 他
- プログラミング演習授業における学習状況把握支援の試み* 市村 哲 他
- The Measurement of Dialogue : From a Case Study of the Workshop Using World Cafe' as a Collective Dialogue Method* Masamichi Takahashi 他

* : 推薦論文 Recommended Paper

† : テクニカルノート Technical Note



IPSJ メールニュースへ広告を出しませんか？

広告を IPSJ メールニュースで配信しています。本会会員が主な読者なので、ターゲットを絞った広告に最適です。

- 配 信 数 : 約 25,000 通 (原則毎週月曜日配信)
- 読 者 層 : 本会会員および非会員
- 形 式 : テキストのみ。等幅半角 70 字 × 5 行。URL を入れてください。
- 掲載位置 : ヘッダ (目次の上)
フッタ (本文の最下行)
- 掲 載 料 : ヘッダ : 1 回 52,500 円 (税込) ※ 3 社限定
フッタ : 1 回 21,000 円 (税込)
※ それぞれ行数超過については別途相談
- 申 込 先 : [広告代理店]
アドコム・メディア (株) E-mail: sales@adcom-media.co.jp
〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27 Tel(03)3367-0571 Fax(03)3368-1519
または、情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8371
- 申込締切 : 毎週水曜日締切、翌週月曜日配信となります。
- 見 本 :

— [広告] —

■■■■ ○○セミナー ■■■■

開催日時 : 1 月 10 日 (火) ・ 11 日 (水) ・ 12 日 (木) 13 : 00 ~ 17 : 00
会場 : ○○コンベンションセンター
会費 : 情報処理学会会員の方には割引があります。
詳細はこちらをご覧ください : <http://www.....com/>

— [広告] —



論文誌トランザクション掲載論文リスト (Dec. 2013)

【論文誌 プログラミング Vol.6 No.3】

- 動的再構成可能システムの仕様記述言語の提案及びその検証実験 山田英史 他
- 無限小定数と限量子除去法によるハイブリッドシステムの検証に向けて 岩塚卓弥 他
- Refactoring Script : 複合リファクタリングを適用可能なリファクタリングスクリプトと処理系 神谷知行 他

【論文誌 コンシューマ・デバイス&システム Vol.3 No.4】

- ポリシーベース電力制御のためのスマートタップの設計と実装 森本尚之 他
- InfoSkin : 情報取捨選択操作ユーザインタフェース 瀬古俊一 他
- セキュリティ標準間の関連情報作成手法の検討とその適応 高橋雄志 他

【論文誌 プログラミング Vol.6 No.4】

- Mindstorms NXT を対象とした Konoha 処理系のコンパクト化 志田駿介 他
- OTC デリバティブ商品定義を目的としたドメイン特化言語の開発と評価 松本吉史 他
- ゴミ集めの機能を応用した不揮発性メインメモリへの書き込み抑制手法の予備的評価 中川 岳 他
- 木上のスケルトン並列プログラミングのための演算子生成器 佐藤重幸 他
- 限定継続命令 shift/reset 付き型主導部分評価器の抽出 廣田知子 他
- Improving Automatic Centralization by Version Separation Lei Ma 他

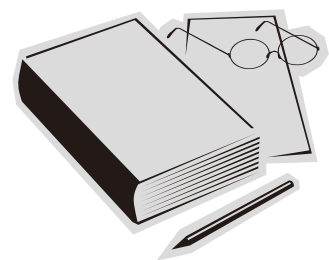
【論文誌 数理モデル化と応用 Vol.6 No.3】

- 水中ワイヤレスセンサネットワークにおける伝搬遅延を考慮したタイムスロットスケジューリング 浜田龍平 他
- ロックアップ期間による制約を考慮した確率的バンディット問題 小宮山純平 他
- 離散・構造化モデル記述言語系 OOJ の構築と科学技術計算教育への適用—分析からプログラムまでの一貫開発と V&V 評価実現の検討— 畠山正行 他
- カテゴリ階層を考慮した構造化パーセプトロンによる固有表現抽出 東山翔平 他
- 遺伝的アルゴリズムによる輝度勾配情報を考慮した荷重メジアンフィルタの設計 鈴木達也 他

- OCR による文字認識誤りを考慮した重み付きトピックモデルに関する検討 田村一樹 他
- 特異値分解アルゴリズムの性能評価のための大きな条件数を持つ行列作成 高田雅美 他
- CMO 問題に対する改良版 EO を用いた発見的解法 中田章宏 他
- Theoretical analysis of learning speed in gradient descent algorithm replacing derivative with constant Kazuyuki Hara 他
- 遺伝的アルゴリズムによる荷重メジアンフィルタの多目的最適化に基づく設計 鍋谷洋介 他
- A numerical analysis of learning coefficient in radial basis function network Satoru Tokuda 他
- 拡張マイノリティゲームにおける役割の分化と切り替えダイナミクスの検討 西本恵太 他
- Properties of associative memory model with the β -th-order synaptic decay Ryota Miyata 他
- 混合正規分布モデルを用いた経時観測蛍光画像からの細胞核の検出と追跡手法 瀬尾茂人 他
- 複数時系列遺伝子発現プロファイルを利用した遺伝子制御ネットワーク推定の精度向上手法 渡邊之人 他

【論文誌 データベース Vol.6 No.5】

- 時々刻々と成長するグラフのための直径モニタリング 藤原靖宏 他
- 情報拡散過程のダイナミクス：非線形モデルの提案と情報予測 松原靖子 他
- ソーシャルメディアにおけるローカルイベントを用いたユーザ位置推定手法 山口祐人 他
- センシティブ属性間の関係多様化によるプライバシ保護手法 高橋 翼 他
- 属性値の同一性・相補性に着目したオブジェクト集合検索手法の提案とその観光地データへの適用 佃 洗撰 他
- 幾何学的なサフィックス木による高速類似構造検索手法 高橋誉文 他
- マイクログログの投稿時間に着目したユーザの職業推定に関する研究 田中成典 他
- ユーザの潜在特徴を考慮したソーシャルネットワーク上の情報拡散モデル 吉川友也 他
- Web 情報を用いた竜巻経路推定支援のためのクラウドソーシング技術開発の試み 丹治寛佳 他



ご意見をお寄せください！

【1月10日頃までにお出しく下さい】

宛先 一般社団法人 情報処理学会 モニタ係（下記のいずれからも送付できます）
http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html Fax(03)3518-8375 E-mail: editj@ipsj.or.jp
（E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください）
※ ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いいたします。
http://www.ipsj.or.jp/privacypolicy.html

[コード]

- (1) ご氏名
- (2) ご所属 Tel. () -
- (3) E-mail:
- (4) 業種： (a) 企業（サービス業） (b) 企業（製造業） (c) 研究機関 (d) 教育機関（大学・高専など）
(e) 学生 (f) その他 4- []
- (5) 職種： (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教職員（大学・大学院） (h) 教職員（小・中・高校・高専など）
(i) 学生 (j) その他 5- []
- (6) 年齢： (a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6- []
- (7) 性別： (a) 男性 (b) 女性 7- []
- (8) あなたはモニタですか？： (a) はい (b) いいえ 8- []
- (9) あなたのご意見は「会員の広場」（会誌およびWeb）に掲載される場合があります。その場合：
(a) 実名可（氏名のみ掲載） (b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない 9- []
- (10) 今月号（2014年1月号）の記事は良かったですか。下記の記事すべてについて評価をご回答ください。
[a…大変良い b…良い c…普通、どちらとも言えない d…悪い e…読んでいない]

巻頭コラム：これからの青春.....	10-1- []
特集：システムとソフトウェアの品質	
1. ICT 応用システムおよびソフトウェア (S&S) の品質向上のための課題と取り組み.....	10-2- []
2. システムおよびソフトウェアの品質基準の体系化.....	10-3- []
3. システムおよびソフトウェア品質向上のための品質測定技術.....	10-4- []
4. システムおよびソフトウェアの品質評価.....	10-5- []
5. ソフトウェア非機能要求の定義.....	10-6- []
6. 国際規格に基づくソフトウェア品質認証制度の構築.....	10-7- []
7. 利用品質.....	10-8- []
8. 品質に対応したプロセスデザイン.....	10-9- []
9. ソフトウェア品質会計における品質要求と評価.....	10-10- []
10. ソフトウェア品質の知識体系.....	10-11- []
鉄道の運行システムにおける情報処理技術の動向：鉄道の運行計画作成の高度化に向けて.....	10-12- []
古機巡礼 / 二進伝心：オーラルヒストリー：山田 博氏インタビュー.....	10-13- []
IT 好き放題：捨てる技術.....	10-14- []
べた語義：情報処理学会における「情報」教育の推進.....	10-15- []
べた語義：PBL Summit.....	10-16- []
べた語義：情報システムの源流で求められる人材.....	10-17- []
ビブリオ・トーク：Computer Networks 5th Edition.....	10-18- []

- (11) 本号で最も良かった記事は何ですか？ 上記 [10] の設問の記事番号から1つだけ選び（例：10-8 の記事の場合は「8」と記入）、その理由をご回答ください。上記に掲載されていない記事の場合はタイトルを直接ご記入ください。
- [11-1] 良かった記事 11-1- []
- [11-2] この記事に対する貴方の立場： a) 専門家 b) 非専門家 11-2- []
- [11-3] 選んだ理由（下記から、いくつでも選択可） 11-3- []
- a) 技術・研究動向がよく分かった b) 知的興味をかきたてられた c) 新たな知識を得ることができた d) 内容が平易で理解しやすかった
e) その他（具体的に下記にご記入ください）

〔12〕 本号で最も良くなかった記事は何ですか？ 上記〔10〕の設問の記事番号から1つだけ選び（例：10-8の記事の場合は「8」と記入），その理由をご回答ください。上記に掲載されていない記事の場合はタイトルを直接ご記入ください。

- 〔12-1〕 良くなかった記事 12-1- []
- 〔12-2〕 この記事に対する貴方の立場：a) 専門家 b) 非専門家 12-2- []
- 〔12-3〕 選んだ理由（下記から，いくつでも選択可） 12-3- []
- a) 記事の内容に誤りがあった b) ありきたりの内容だった c) 記事が難しすぎた d) 何を言いたいのか分からなかった e) 宣伝の意図が強すぎる
f) テーマに興味を持てなかった g) その他（下記に具体的に記入ください）

〔13〕 今の特集に対する貴方の立場を教えてください。

- 〔13-1〕 システムとソフトウェアの品質：a) 専門家 b) 非専門家 13-1- []

〔14〕 設問〔10〕で読んでいないと答えた記事について，その理由を教えてください。

〔15〕 会誌に対するご意見やご感想，著者への質問，巻頭コラムに登場してほしい人物，今後取り上げてほしいテーマなどありましたらご記入ください。（スペースが足りない場合はお手数ですが別紙を追加してください）

■ 各種問合せ先 ■

一般社団法人 情報処理学会（本部） ※ 支部所在地等詳細はリンクされている各支部ページでご参照ください。
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F Fax(03)3518-8375 <http://www.ipsj.or.jp/>

担当	E-mail	Tel(ダイヤルイン)	取り扱い内容
■ 会員サービス部門			
会 員	mem@ipsj.or.jp	03-3518-8370	入会，会費，変更連絡，退会，在会証明，会員証，会費等口座振替，海外からの送金
■ 会誌編集部門			
会誌編集	editj@ipsj.or.jp	03-3518-8371	会誌「情報処理」の掲載内容，広告掲載，転載許可，出版，論文誌（デジタルプラクティス），著作権
■ 研究部門			
論文誌	editt@ipsj.or.jp	03-3518-8372	論文誌（ジャーナル／トランザクション／JIP）の編集・査読
調査研究／教育	sig@ipsj.or.jp		研究会登録，研究発表会，シンポジウム，研究グループ，国際会議，IFIP委員会
■ 事業部門			
事 業	jigy@ipsj.or.jp	03-3518-8373	全国大会，FIT，連続 세미나，プログラミング・シンポジウム
■ 管理部門			
総 務	soumu@ipsj.or.jp	03-3518-8374	理事会，支部，役員選挙，名誉会員
経 理	keiri@ipsj.or.jp		出納，送金連絡
システム企画	sys@ipsj.or.jp		システム企画，電子化委員会，電子図書館，IP SJ メールニュース
図 書	tosho@ipsj.or.jp		出版物購入
■ 情報規格調査会			
規格部	standards@itscj.ipsj.or.jp	標準化フォーラム 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 Tel (03)3431-2808 Fax (03)3431-6493 http://www.itscj.ipsj.or.jp/	

今回、「システムとソフトウェアの品質」という特集を担当させていただきました。全10編という大作になってしまいましたが、当初はもう少し軽く考えていました。全体的話と、個別に2～3編。あとはユーザ視点から見た利用時品質は外せないな、などと考えつつ、せいぜい5編かな？などと勝手に見積もっていました。しかし、スタートして、多くの方々のご意見をいただくうちに、どんどん膨れ上がってしまい、あらためて「品質」の奥の深さを実感しました。執筆していただいた方々には、かなりの無理を申し上げてしまいましたが、何とか無事にまとめることができました。これも、執筆者各位の品質に対する思いの表れだと思っています。

近年、ソフトウェアの品質に起因した事故が問題視されています。それに対して、ソフトウェアの機能の実装、機能の実行を阻害するバグや故障のみに目が行きがちで、使

いやさや性能など、品質の多面性を意識した、体系だった取り組みがあまりなされていないようにも思われます。今回の特集では、多角的かつ定量的な品質評価について、ソフトウェアのライフサイクルにおける品質要求定義と品質評価の技術、その実践の基盤となる戦略、基準、人材育成、および事例や制度化まで、幅広い観点から動向を紹介できたと思っています。まだまだ足りない点もあるかとは思いますが、システムやソフトウェア開発にかかわる多くの方にとって、品質向上につながる何らかの気付きにつながれば幸いです。

最後に、ご多忙にもかかわらず原稿作成を引き受けていただいた執筆者の皆様、企画に際し数々のアドバイスとご指摘をいただいた編集委員の皆様、最後まで編集にご尽力いただいた事務局の皆様にご挨拶申し上げます。

(福住伸一、込山俊博/本特集ゲストエディタ)



次号 (2月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」システム科学・情報学から見たこれからのサービスサイエンス

サービス・システム・サイエンスの展開／システム科学としてのサービス・サイエンス／Internet of Things 時代のサービスチェーン／サービスシステムをデザインするフューチャーセッション・アプローチ／これからの都市型公共サービスを考える—はこだてスマートシティプロジェクトを例にして—／現場参加型サービス工学—気仙沼～絆～プロジェクトでの気づき—

解説：IT 紛争の事例とそこから見える問題点・知見—専門家としてのベンダの責任とユーザの協力義務— …細川義洋
歴史的計算機の動態保存から得られる知見……………泊 久信 他

教育コーナー：べた語義

連載：鉄道の運行システムにおける情報処理技術の動向／ビブリオ・トーク

コラム：巻頭コラム／シニアコラム：IT 好き放題

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4色	2色	1色
表2	346,500円 (税抜330,000円)	—	—
表3	288,750円 (税抜275,000円)	—	—
表4	404,250円 (税抜385,000円)	—	—
表2対向	315,000円 (税抜300,000円)	—	—
表3対向	278,250円 (税抜265,000円)	199,500円 (税抜190,000円)	162,750円 (税抜155,000円)
前付1頁	262,500円 (税抜250,000円)	173,250円 (税抜165,000円)	141,750円 (税抜135,000円)
前付1/2頁	—	—	84,000円 (税抜80,000円)
前付最終	—	—	155,400円 (税抜148,000円)
目次前	—	—	155,400円 (税抜148,000円)
差込 (A判70.5kg未満 1枚)	288,750円 (税抜275,000円)		
差込 (A判70.5kg～86.5kg 1枚)	367,500円 (税抜350,000円)		
同封 (A判 1枚)	367,500円 (税抜350,000円)		

■「情報処理」

発行 一般社団法人 情報処理学会
 発行部数 20,000部
 体裁 A4判
 発行日 毎当月15日
 申込締切 前月10日
 原稿締切 前月20日
 広告原稿 完全版下データ
 原稿寸法 1頁 天地260mm×左右180mm
 1/2頁 天地125mm×左右180mm
 雑誌寸法 天地297mm×左右210mm

■問合せ・お申込み先

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27
 アドコム・メディア(株) (Tel/Fax/E-mailは下に記載)

*原稿制作が必要な場合には別途実費申し受けます。
 *同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック☑を入れ、送付希望先をご記入の上、Faxにて（またはE-mailにて必要事項を記入の上）アドコム・メディア(株)宛にご請求ください。

■「情報処理」55巻1号 掲載広告（五十音順）

- インタフェース …… 表2 日本電気 …… 表4, 同封
 オーム社 …… 表2対向 フォーラムエイト …… 前付最終
 サイエンス社 …… 目次前 三菱電機インフォメーションテクノロジー …… 表3

すべての会社を希望

■資料送付先

フリガナ
お名前 _____

勤務先 _____ 所属部署 _____

所在地 (〒 _____) _____

TEL (_____) _____ - _____ FAX (_____) _____

ご専門の分野 _____



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア(株)**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp

賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。
 Web サイト (<http://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/sanjo.html>) 「賛助会員一覧」のページからも
 各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (51口～)

HITACHI

Inspire the Next

(株) 日立製作所

●●● 賛助会員 (20～50口)

FUJITSU

富士通 (株)

NEC

日本電気 (株)

MITSUBISHI

Changes for the Better

三菱電機 (株)

TOSHIBA

(株) 東芝

IBM

日本アイ・ビー・エム (株)

●●● 賛助会員 (10～19口)

Google

グーグル (株)

GREE

グリー (株)

docomo

(株) NTTドコモ

NTT

日本電信電話 (株)

Microsoft

日本マイクロソフト (株)

●●● 賛助会員 (3～9口)

NTT Data

NTT データ (株)



NTTコムウェア (株)

OKI

沖電気工業 (株)

楽天

楽天 (株)

JISA

情報サービス産業協会

uejima

(株) うえじま企画

SANBI

三美印刷 (株)

SONY

ソニー (株)

Panasonic

ideas for life

パナソニック (株)

Plat'Home

ぷらっとホーム (株)

●●● 賛助会員 (2口)



(株) KDDI 研究所



NTT アドバンステクノロジー (株)



三協印刷 (株)



鉄道情報システム (株)



(株) ナレッジクリエーション
テクノロジー



日本放送協会
放送技術研究所



(株) 日立システムズ

インテル (株)

【A～Z】

(株) ATR-Trek
 (株) CIJ
 (株) HBA
 (株) IT働楽研究所
 JRC エンジニアリング(株)
 (株) JTB コーポレートセールス 法人営業川崎支店
 (株) KDDI 研究所
 MHI エアロスペースシステムズ(株)
 NEC システムテクノロジー (株)
 (株) NEC 情報システムズ
 NEC ソフト(株)
 NEC ソフトウェア東北(株)
 NEC フィールドディング(株)
 NTT アドバンステクノロジー(株)
 NTT コムウェア(株)
 NTT ソフトウェア(株)
 (株) NTT データ
 (株) NTT データ・アイ
 (株) NTT データ関西
 (株) NTT データ九州
 (株) NTT データ東海
 (株) NTT データ東北
 (株) NTT ドコモ
 (株) OKI ソフトウェア
 (株) PFU
 SCSK (株)
 TDC ソフトウェアエンジニアリング (株)
 TIS (株)

【あ行】

アートシステム(株)
 アイアンドエルソフトウェア(株)
 (株) アイヴィス
 (株) アイ・エス・ピー
 アイシン・コムグループ(株)
 アイシン精機(株)
 (株) アイズファクトリー
 アドコム・メディア(株)
 (株) アドバンス トラフィック システムズ
 (株) アドバンス・メディア
 (株) アルファシステムズ
 (株) いい生活
 池上通信機(株)
 伊藤忠テクノソリューションズ(株)
 (株) インテック
 インテル(株)
 インフォサイエンス(株)
 (株) ヴァル研究所
 ヴィスコ・テクノロジー(株)
 (株) うえじま企画
 (株) エクサ
 エクセルソフト(株)
 (株) エスケーエレクトロニクス
 エヌ・ディー・アール(株)
 (株) エルザジャパン
 オークマ(株)

(株) 大塚商会
 (株) オーム社
 沖電気工業(株)
 (株) 小野仁
 オムロン(株)

【か行】

(独) 科学技術振興機構
 (公財) 画像情報教育振興協会
 (学) 片柳学園日本工学院専門学校
 (学) 片柳学園日本工学院八王子 専門学校
 関電システムソリューションズ(株)
 (一財) 機械振興協会
 キヤノン(株)
 キヤノン(株) 技術資料センター
 キヤノン IT ソリューションズ(株)
 キヤノンソフトウェア(株)
 (公財) 九州先端科学技術研究所
 共立出版(株)
 (株) 近代科学社
 グーグル(株)
 グリー (株)
 (株) コア 中四国カンパニー
 (株) 構造計画研究所
 国土館大学
 国立国会図書館
 コニカミノルタ(株)

【さ行】

(株) サイエンスハウス
 サクサ(株)
 サクシード(株)
 三協印刷(株)
 三美印刷(株)
 (株) シーエーシー
 (株) ジーダット
 (株) ジェイアールシステム・エンジニアリング
 (株) ジェイアール東日本情報システム
 (株) ジェーエフピー
 システム・オートメーション(株)
 実教出版(株)
 シャープ(株)
 (株) ジャステック
 (株) ジャパンテクニカルソフトウェア
 (一社) 情報サービス産業協会
 (独) 情報処理推進機構
 (独) 情報通信研究機構
 新日鉄住金ソリューションズ(株)
 (株) ステラジアン
 住友電気工業(株)
 (株) セガ
 (株) セカンドセレクション
 セコム(株)
 ソニー (株)
 ソニーグローバルソリューションズ(株)
 (株) ソフトウェアコントロール

(一財) ソフトウェア情報センター
 ソフトウェア特許情報センター

【た行】

拓殖大学
 (株) 中電シーティーアイ
 (一社) 中部産業連盟
 中部電力(株)
 中部日本電気ソフトウェア(株)
 通研電気工業(株)
 テービーテック(株)
 デジタルプロセス(株)
 鉄道情報システム(株)
 (公財) 鉄道総合技術研究所
 (社) 電子情報技術産業協会
 (株) デンソー
 (株) デンソーアイティーラボラトリ
 (株) デンソークリエイト
 (株) 電通国際情報サービス
 (一財) 電力中央研究所
 東海ソフト(株)
 東海旅客鉄道(株)
 (株) 東芝
 東芝インフォメーションシステムズ (株)
 東芝システムテクノロジー (株)
 東芝情報システム(株)
 東芝ソリューション(株)
 東芝テック(株)
 東芝マイクロエレクトロニクス(株)
 東芝メディカルシステムズ(株)
 (株) 東和システム
 トーヨー企画(株)
 特許庁
 トップパン・フォームズ(株)
 (株) トヨタコミュニケーションシステム
 トヨタ自動車(株)
 (株) 豊田中央研究所
 (株) トヨタデジタルクルーズ
 (株) ドワンゴ

【な行】

(株) ナレッジクリエーションテクノロジー
 (株) ニコンシステム
 日鉄日立システムエンジニアリング (株)
 日本アルゴリズム(株)
 日本電気(株)
 (株) 日本電気特許技術情報センター
 日本アイ・ピー・エム(株)
 (公社) 日本化学会
 日本銀行
 日本原子力研究開発機構
 日本証券テクノロジー(株)
 (一財) 日本情報経済社会推進協会

(一社) 日本情報システム・ユーザー協会
 日本信号(株)
 日本電子計算(株)
 日本電信電話(株)
 (一財) 日本品質保証機構
 日本放送協会 放送技術研究所
 日本マイクロソフト(株)
 日本無線(株)
 日本ユニシス(株)
 (株) 日本旅行
 (株) 野村総合研究所

【は行】

(株) ハイエレコン
 パイオニア(株)
 萩原電気(株)
 (有) バクサリー
 パナソニック(株)
 パナソニック(株) AVC ネットワークス社
 パナソニック(株) エコソリューションズ社
 パナソニック SN エバリュエーションテクノロジー (株)
 パナソニック システムネットワークス(株)
 (株) ハピネット
 (株) ビーコン インフォメーションテクノロジー
 日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア(株)
 (株) 日立アドバンスデジタル
 (株) 日立国際電気
 (株) 日立システムズ
 (株) 日立情報制御ソリューションズ
 (株) 日立製作所 情報・通信システム社
 (株) 日立製作所 中央研究所
 (株) 日立製作所 中国支社
 (株) 日立製作所 東北支社
 (株) 日立製作所 横浜研究所
 (株) 日立ソリューションズ
 (株) 日立ソリューションズ西日本
 (株) 日立ソリューションズ東日本
 (株) 日立ソリューションズ・ビジネス
 (株) 日立テクニカルコミュニケーションズ
 (株) ファースト
 (株) フォーカスシステムズ
 (株) フォーラムエイト
 (株) フジキカイ 名古屋工場
 富士通(株)
 (株) 富士通アドバンスエンジニアリング
 (株) 富士通エフサス
 (株) 富士通九州システムズ
 (株) 富士通システムズ・イースト
 (株) 富士通システムズ・ウエスト
 (株) 富士通ソーシャルサイエンス

ラボラトリ
 フジテック(株)
 富士電機(株)
 富士フィルム(株)
 船井電機(株)
 フューチャーアーキテクト(株)
 ぶらっとホーム(株)
 古野電気(株)
 ペンギンシステム(株)
 (株)堀場製作所
 (株)本田技術研究所基礎技術研
 究センター

【ま行】

マツダ(株)

三井情報(株)
 (株)ミックナイン
 三菱UFJモルガン・スタンレー証
 券(株)
 三菱スペース・ソフトウェア(株)
 三菱電機(株)
 三菱電機インフォメーションシステ
 ムズ(株)
 三菱電機コントロールソフトウェア
 (株)
 三菱電機コントロールソフトウェア
 (株)伊丹事業所
 三菱電機情報ネットワーク(株)
 三菱電機メカトロニクスソフトウェ
 ア(株)
 (株)三菱東京UFJ銀行

三菱プレジジョン(株)
 武蔵野美術大学
 (株)メイテツコム

【や行】

ヤフー(株) Yahoo! JAPAN 研究
 所
 ヤマハ(株)
 横河電機(株)

【ら行】

楽天(株)
 リードエグジビジョンジャパン(株)

(株)リコー
 (株)リナックス総合研究所
 (株)リンクレア
 (株)ロックオン

注) 一般社団法人・一般財団法人・公益
 財団法人はそれぞれ(一社)・(一財)・(公
 財)と省略した。



研究会が
たくさんあるなあ

自分に合った
分野が見つかりそう

入会して発表会に
参加しよう!

詳しくは <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

ITに関する最新情報や研究発表の場の提供を通じて、あなたのお役に立ちます。

会員募集中!!

申込/照会先 一般社団法人 情報処理学会
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F
 Tel(03)3518-8370(会員サービス部門) E-mail: mem@ipsj.or.jp

協力協定学会との正会員会費相互割引について

各学協会との協定により、正会員会費が割引になります。ぜひ、ご活用ください。
 本会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/member/kyoryoku.html>) にも掲載しております。

●協力協定学会名・相互割引率 (正会員会費が割引対象)

IEEE	(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)	10%
IEEE-CS	(IEEE Computer Society)	10%
ACM	(Association for Computing Machinery)	20%
CSI	(Computer Society of India)	20%

※協力協定学会の会員費割引については、海外関連団体 (<http://www.ipsj.or.jp/annai/kanrenlink/kaigaikanren.html>) を
 ご参照いただき、直接お問い合わせください。

●本会への申請方法

会費割引を希望する正会員は、次のフォームから申請してください。8月以降の申請は次年度会費を割引します。

正会員会費割引申請フォーム (<https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-seikaiin-kaihiwaribiki.html>)

初めて申請する方は上記協力協定各学会正会員の会員証コピーを Fax 等で送ってください。割引適用は1学会分といたします。

※これから入会を希望する方も同様に申請できます。入会申込書(正会員) (https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-nyukai_sei.html) を
 ご確認ください。

■照会先: 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8370 Fax(03)3518-8375